校友時報

昭和50年6月12日
編集人兼発行所
秋田県能代市高塚2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

問題残る総会

去る5月23日 生徒総会が体育館において行なわれた。今回出された議案は、結局すべて可決された。しかし、この大事な総会に会長の不在や会計監査員の決算報告の形式化の暴露、生徒会と顧問の関係、ならびに総会への職員の参加権など問題は残されている。

生徒会費百円値上げ
議案はすべて可決

五月二十三日の五、六校時に総会が体育館で行なわれた。議案とか生徒会費値上げについては、プリントの配布、菅原会長の放送による生徒会費の値上げのいきさつの説明、企画部・新聞部の掲示である程度生徒に知らせておいた。そして、総会では活発な質疑応答が行なわれ、結局議案はそのまま可決された。しかし一般の質問で生徒会と顧問の関係や総会の職員の参加権に関する質問があったが時間が足りないため十分討議されないまま、議長の権限による生徒委員会で審議することにし、持ち越されたまま中断され予定よりおよそ十分ほど遅れ終了した。

五校時始まりのベルが鳴ってから実に二十分後になり、企画部からの四十九年度の決算報告、会計監査員の監査の結果の報告で審議が始まる。

決算について「昨年、将棋同好会へは旅費を出したのか。同好会へは旅費を出してもいいのかはっきりして欲しい」と質問があり、「よくわからない」という回答も出る始末。結局予備費から同好会へやったということであり、配布したプリントで説明したのとは違うので、質問者は会計監査へ訂正を要求し、項目変更で訂正された。その後、決算の承認について採決がとられ賛成者過半数で承認された。毎年、形式化しつつある会計監査の報告が暴露されたと受けとるのは大げさであろうか。生徒会が生徒から離れている現状の端的なあらわれと受けとることができなくもない。

次に生徒会費の百円値上げと五十年度予算について企画部から説明される。値上げの理由は菅原会長が放送で以前にも説明した通り、諸物価の値上り、ならびに国鉄運賃、印刷費の値上げで、今までの予算では生徒会活動が十分にできないので、百円値上げに踏み切ったということである。これに対し、「文化祭の予算のこと」とか、「値上げ中は百円で足りるのか」という質問が出されたが「文化祭の内容までは決めていないが昨年より二千万円増にした。」また「物価は流動的で本年度は百円値上げで足りる」という回答であった。五十年度予算案も百円値上げも、採決の結果承認された。

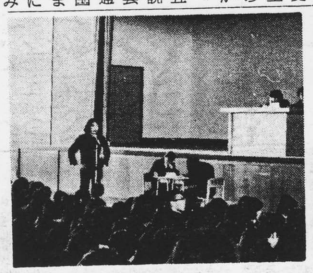
ところで、弁論部に部員がとび数年来全く入っていない。しかし生徒会では部には必ず部費を出さなければならず、毎年出している。結局この百円は予備費に回される訳であるが、今回もこの百円について質問が出された。毎年同じ繰り返しであるが、弁論部はどうにかならないものであろうか。

生徒との一本化を

生徒総会は生徒会の最高議決機関で重要なはずのものであるが、その会の会長が不在のまま行なわれた。会長欠席の理由の質問も出されたが、代理である副会長も知らず、一般生徒は未だその理由は知らされていない。公約の実現を望まれる会長であるが、総会を無断で欠席したり、どうしたものであろう。今後の責任ある行動に注目したい。

今回は全般に活発な質問が出され、一部の生徒からは生徒会のありかた方に関する根本的な問題をはらむ質問もあり、生徒会への強い関心を示すものと受けとられた。しかし会役生徒がそうであるとは言い切れず、質問は一部の人によって出されたし、途中、質問者、回答者、議長の三者だけで進行され、一般生徒との断絶という現象もはっきり出てる。

一般生徒とより密接な生徒会であるために、生徒総会はいい機会であるのだが、時間が足りなく、生徒から出される一般の質問を扱う時間はほとんどない。普段は全委員会、企画部で運営されていて、一般生徒とは無関係であるような観がある。今後、委員会と一般生徒を結び付けるパイプをより確かなものにするのが最大の課題であろう。一般生徒は全ア生徒会に無関心であるはずはないからである。この点を強く望む。



体育館にて総会のようす

意識の改革から

校則違反者、生徒会に全く無関心で参加しない者、さらに三無・四無主義こまで言われる者は、少なからず我校にもいる。校則についてあれこれ守るようにと指導されるが、表面だけの規制にとどまり耳を傾けているだろうか。校則とか生徒会とどれほど意識しているか、それさえ危ぶまれる。三無・四無主義と言われる者にとっては、その存在さえにも無関心であろう。その原因を意識の下の精神的なものに求めてみようと思う。

個人差もあるが、全体的に言えることが二つある。要するに、我々の生活が受験中心であること、やがて我々は社会の官僚制度の中にしまれる。現代の社会は何から何までシステム化されていて、そこから脱出して生きることは不可能に近い。システムの中では、人間は一つの機能的存在としてあつかわれる。役立たずは捨てられ、上に立っても常に安息はない。そして、自分の行きつく所は見えているという感じである。夢がなくなっているのである。非常に虚ぬ感じがする。

以上のような意識は誰しも抱いているものであろう。このような意識が校則違反や生徒会への不参加、三無・四無主義と今の無関係のものとは思われない。このような意識の改革なくして現状の改革は望めない。

意識の改革となると個人の問題で、強制されたりしてもどうにもならない。しかし、受験や官僚制度におし流され、坐折してしまったら、そこからいったい何が生まれると言うのであろうか。我々はまだまだやりがいのある高校で自らの意志によって行動する必要がある。坐折せず何かに立ち向かう精神こそが大切であろう。

食堂オープン!!

セミナーハウスの完成にともない去る六月一日、本校の食堂がオープンした。広さは約五十二坪メートルで、百人ぐらいが一度にはいれる。旧校舎に比べて大きくなったのはもちろん、三方がサッシで、田んぼや遠くの景色までが見われた明るい雰囲気である。

さしあたってメニューはカレーライスラーメンの二種類、それぞれ一五〇円、一三〇円で、生徒が利用できる時間は昼休みである。これは試行段階で、慣れてきたら、メニューを増やし、値段も多少の変動はあるかもしれないとのこと。

食堂開設にさきがけて行なわれた教師の試食会はなかなか好評で雰囲気、色彩、環境がよい、中にはモダインにいるみたいだという声も聞かれた。そこで生徒に初日の感想、意見などを聞いたところ、一部に今以前より環境が良くなったという声が聞かれたほかも混雑しすぎるともっと早く作ってほしいと展休み以外にも開いてほしいなどが多数をしめた。その他調理のおばさんの服装についての意見が出た。なにぶんにも四人のおばさんで、あれだけの人数分を作るのであるから当然いろいろ限界がある。また、ユーラ等の自動販売機は、必要と認められれば、ただちに設置するようである。なるべくつり銭のいらないようにし、秩序を守って利用してほしい。

セミナーハウスには食堂の他に合宿設備としての機能が整っている。一階は、食堂、調理室をはじめバス、トイレ、六畳、八畳の和室があり、食堂はフローティオンカーテンでしきられ、研修室にもなるようである。一階は、宿泊室四つ、六畳二つ、四畳半一つとなっている。宿泊室は一室につき、たたみ敷きの二段ベッドで十四人ぐらい入れる。和室には押し入れ床の間など備えつけてある。ふとんもすでに入っており、これからのクラブ、HR合宿などに利用されることになっている。

〝国立40名突破〟

昭和五十年度の入学試験は、まさに現役の努力の結果そのまま現われたものであった。

本年度の特徴としては、国立・私立とも現役の合格者が多かったこと。特にここ数年来横ばい状態であった国立の合格者が、例年の二倍の四十名を突破したことは目をみはるものがある。

また東北大・岩大、それに地元秋大鉱山学部、私立では日大・法政大・東海大・東洋大などに合格者が集中したことも目だった。しかし、いわゆる一期校の花である東大への受験者がいなかったと、京大の受験者が二名しかいなかったのはやや淋しい感じ。とは言え、国立の難関、医学部への現役合格が二人（現浪五名）はヒットである。

今年は推薦入学の難しさが浮き彫りにされた年でもあったようだ。安易に推薦入学を希望することは戒めなければならない。

この実績を踏まえて今年の三年生の一層の奮起を期す。

昭和50年度大学進学状況

	浪人		現役	
	合格	実進	合格	実進
国立1期	9	6	15	14
国立2期	15	14	27	25
公立	3	3	2	1
私立	111	67	204	143
国立短大			2	2
公立短大			4	4
私立短大			1	1
各種学校	1	1	18	18
総計	139	91	273	208

サッカー同好会発足

部員が全くいない弁論部とはうらはらに、本年度からサッカー同好会が発足することになった。サッカーは数年前から愛好会として活動していたが、はっきりとした練習場がないため今まで認められなかったが、今度新しいグラウンドにサッカー場もできるため、今回の総会で認められた。三年生の小西君をキャプテンとし、会員は現在約三十名いる。顧問は二B担任の藤田先生である。サッカー同好会は発足にあたり、「他クラブへは絶対に迷惑をかけない。会費などはなるべく学校の負担はかけない」と約束した。満場一致の賛成で発足し、全校生徒の支援を受けたサッカー同好会である。

〝渦点〟

▼今、一連の爆破事件で新聞を騒がせている〝狼〟グループはもともとアナキストの集団である。

▼アナキストとはなにであるか。アナキストとはもともとギリシャ語のアナキスムから出たことばである。これを現代的な言葉にしたのがフランスの代表的なアナキストであるプルードンである。最近の研究では、この言葉が十九世紀の中頃から今日の意味で使われたといわれる。

▼では、アナキストの思想とは何であるか。彼らの根本的思想は無政府主義である。強制・法律などがなくても自ら意志によって自発的に正義が守られていくという社会である。そういう革命思想なのである。

▼日本のアナキストでは、大逆事件で処刑された有名な幸徳秋水がいる。それは戦前日本のアナキストは社会主義として取り扱われてきている。戦後民主化の進む中でアナキストたちも数多く生まれた。彼らは常に革命を前提として行動しているのである。しかし、彼らは革命を成功させたとしても自ら政権を取り、政治を行なおうとはしない。それが彼らの思想の矛盾点である。

▼革命が悪いとは言わない。しかし一連の爆破事件によって罪のない多くの国民を犠牲にした事に問題がある。革命を行なうにあたって常に前提となるのは、大多数の庶民を味方に付けるという事である。これからも〝狼〟グループのような革命思想を持った人間が出てくるであろうが、罪のない国民をまきぞえにしたり、犠牲にしたりするのでは、革命でも何でもない、まず、現代社会に生きる人間としても失格である。

▼政治とは人間がよりよい社会を営むためのものであり、多くの庶民のために存在するものである。決して少数の権力者のためにあるのではない。この原則を彼らアナキストは破ったのである。

小さな商品でも価値ある品
吟味された提供品ばかり
学生の店
文具のアベ
能代市追分町1の30
TEL 2－5311

クツとカサなら
協働社
能代駅前 TEL 2－3934

本校指定
フルーツパーラー
カスミ
柳町 TEL 2－5713

体力づくりなら……
スポーツ用品なら……
納谷スポーツ
西通町 TEL 2－3429

製造直売
全国100店舗、県内9店舗
良い品を安く
テレス紳士服
能代テレス
能代市元町10番1号（能代駅前）
TEL (01855) 4－3642

毎日の健康管理に
グロスミン
塚本薬局
能代畠町6－9